

2019 年度 事業報告書



ネパール アナンドバン病院の元奨学生


JOCS 医療を通じて、愛を世界へ。
公益社団法人
日本キリスト教海外医療協力会
JAPAN OVERSEAS CHRISTIAN MEDICAL COOPERATIVE SERVICE

目 次

1. 今年度の歩み	1
2. 中長期計画における位置付け	3
3. 海外諸活動	3
3-1 海外派遣	3
(1) バングラデシュ 岩本直美ワーカー	3
(2) タンザニア 雨宮春子ワーカー	4
(3) 短期	5
3-2 奨学金事業	6
3-3 協働プロジェクト（プロジェクト・りとる）	12
(1) SALT（次世代のための健康と衛生）プロジェクト カンボジア	12
(2) シロアムプロジェクト ケニア	12
(3) ママ・ナ・ムトプロジェクト タンザニア	14
3-4 災害救援復興支援	14
4. 国内諸活動	14
4-1 国際保健人材育成	15
4-2 国内啓発および国際協力に関する協働を育む活動	17
4-3 マーケティング	22
5. 運営体制	27
5-1 社員総会	27
5-2 理事会	27
5-3 委員会	28
5-4 事務局	29
6. 一般会員・社員会員の現状報告	30
7. 2019 年度の主な動き	30

1. 今年度の歩み

＜常務理事 大友宣＞

信仰に基づく祈りは、病人を救い、主がその人を起き上がらせてくださいます。（ヤコブの手紙 5 章 15 節）

2019 年 12 月に JOCS 元ワーカーの中村哲さんがアフガニスタンで殺害されました。心から哀悼の意を表します。世界中の人たちが平和を創り出す中村さんの生き方に心動かされていたように思います。中村さんの生き方の中には信仰と祈りと実践があったのではないかと思います。ヤコブは手紙の中で、信仰すること、祈ること、実践することの重要性を私たちに伝えます。そして、最終的には主が病人を救い、その人を起き上がらせることを語っています。JOCS は今年度、主にある平和を創り出すため、病人のため、障がいをもつ人のため、貧困の中にある人のため、戦争の中にある人のため祈り、実践してきました。主が大きな御手で救い、起き上がらせてくださることを私たちは知っています。

JOCS の平和を創り出す活動の最前線にいるのは、ワーカーやワーカーが働く現地の組織の方々、現 JOCS 奨学生や元奨学生、協働プロジェクトの方々、事務局員たち、そして、現地で病気や貧困のただ中にある方々です。そしてその活動が今年も会員、支援者、ボランティアの皆様によって支えられました。

2019 年度は、「5 カ年計画 2018」の 2 年目でした。「取り残された一人ひとりを捜し、苦悩と喜びを皆で分かち合う」ことを目指して作成したこの計画を実現するよう一歩一歩進んできました。

岩本直美ワーカーはバングラデシュの知的障がい者と共に生きた第 6 期の活動を終え、全国各地で報告会を開きました。異文化、異宗教の垣根を超えて神がはたらかれる現場を創り出す働きについて静かな語り方で話し、キリスト者としての生き方を伝えてくれました。そして、第 7 期の活動を開始しています。雨宮春子ワーカーは語学研修後、タンザニアのタボラ、カリウアに赴任し、助産師としてお母さんや子どもたちと共に生きはじめています。現地の方々に早くとけ込み、救うことができる命をひとりでも増やそうとしています。

2019 年度も奨学生に対して支援をおこないました。事務局員が現地を訪問しモニタリングを実施しました。さらに効果的で顔が見える奨学金の運用をするため、現地で起こっている課題に向き合いました。「みんなで生きる」や年次報告書に、奨学生が自らの「ものがたり」を語り、これによって奨学生が平和を創り出す役割を果たしました。

協働プロジェクトはカンボジアでは健康教育、ケニアでは療育事業、タンザニアでは母子保健の活動をおこないました。カンボジアの SALT プロジェクトは終了時評価を終え、5 年間の協働事業が終わりました。健康教育が学校教育の中でおこなわれていなかったカンボジアで成果をあげることができました。今後は現地団体が活動を継続する予定です。ケ

ニアでは療育事業を支援し、短期専門家を送り療育の質の向上に寄与しました。タンザニアでは雨宮春子ワーカーが赴任し活動が本格的に始動しています。3事業とも女性と子どもが活躍できる平和な社会を目指しています。現地の団体と協働し、共に成長することができました。

JOCSではワーカー派遣、奨学金、協働プロジェクトの3事業をおこなっていますが、特にタンザニアでは3事業の連携を深めてきました。

国内では、共に生きる仲間をひとりでも増やしていくため、例年どおりの活動をおこないました。JOCSは2020年度に60周年を迎えます。2020年度度に向けた国内活動の準備を理事会などでおこないました。

2020年に入り新型コロナウイルス感染症のパンデミックがあり、スタディーツアーはじめ、多くのJOCSのイベントが中止になりました。年度末になっても感染は拡大の一端をたどっており、ワーカーの働きなどにも影響が及んでいます。感染された方が癒されますように、またお亡くなりになった方のご家族に慰めと支えがありますようにお祈り申し上げます。今後、医療や安全な水の乏しい途上国での感染拡大を考えると、心配でなりません。JOCSが世界の中で何ができるのか考えさせられています。

これからも、共に生きる私たちの活動を一層充実させていくよう、努力してまいります。変わらぬご支援、ご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。2019年度も、多くのボランティアの皆様がJOCSの活動を支えてくださいました。私たちの活動に共感して様々な形でご支援をくださった方々に、深く感謝申し上げます。

2. 中期計画における位置づけ

2019年度は「5カ年計画2018」の2年目であった。新規ワーカー派遣、新規協働プロジェクトの開始はなく、奨学金事業でも大きな前進というものはなかったが、2018年度からの活動が引き続き確実に前に進んだ。

海外諸活動においては、バングラデシュの全般的な治安は以前よりは安定してくるなど良い変化の兆しがありつつも、JOCSの活動に間接的にマイナスの影響を与えうる中東での政情不安や新型コロナウイルスの流行などもあった。そういった環境の中、タンザニアでは、ワーカーの働き、奨学金事業、協働プロジェクトの有機的な連携が進められ、5カ年計画のビジョンに基づく活動の展開が進んでいる。またバングラデシュには岩本ワーカーを再度派遣した。カンボジアの協働プロジェクトは協力団体が活動を継続するかたちで無事終了した。奨学金事業ではウガンダでの活動展開で直面していた問題の解決に一定の進捗があった。

会費、寄付金を増やし、財政基盤を安定させることについては、順調に進んでいる。残念ながら会員は未だ増加傾向にないが、確実に減少が抑えられてきている。これは退会者の減少と新入会者の増加の結果である。財政的にも、平均した寄付額が増加傾向にあることもあり、公益社団法人としての収支相償の条件を満たしつつ健全といえる財務状態であった。効果的な広報のために、これまでの活動の中で与えられた様々な物語を将来にわたって活用できるようにする仕組みづくりも進められた。

3. 海外諸活動

ワーカーは2名、協働プロジェクトは3件、奨学金では54名を支援した。ワーカー1名の任期更新による再赴任と協働プロジェクト1件の終了が2019年度の新たな動きであった。災害救援復興支援はおこなわなかった。

[3-1] 海外派遣

バングラデシュでは、岩本直美ワーカーが日本で第6期帰国報告会をおこなった後、第7期として再赴任し、タンザニアでは雨宮春子ワーカーが任地のタボラで活動を開始した。ネパール、ウガンダ、ケニアの協力団体から、ワーカー派遣の要請を受けた。

(1) バングラデシュ 岩本直美ワーカー（看護師）

派遣先：L'Arche Mymensingh（ラルシュ・マイメンシン）

派遣期間：【第6期】2016年7月～2019年7月

【第7期】2019年12月～2021年8月

活動概要：知的障がいのある人々とともに生活し、コミュニティがバングラデシュの人々によって運営されるように人材育成と組織づくりをしている。

- 1) 拡大行政区（マイメンシン県を含む4県が統合された行政管区）の新しい行政運営責任者等を積極的に招き、コミュニティとの関係づくりに努力した。社会福祉行政担当責任者の理解、協力が得られるようになり、その成果の一つとして、家族のいない障がいのあるメンバー21名全員の障がい者手当手帳を取得できた。これにより一人あたり月600円程の手当を受給できるようになった。



ラルシュ理事会メンバーと
岩本ワーカー

- 2) ラルシュ・マイメンシンが地域社会やコミュニティの変遷と将来的なニーズに応えられるよう、新しいトラスト証書（日本の公益信託証書に相当する文書）のドラフトを作成した。長年の懸案であったコミュニティが閉鎖された場合の財産の保護および家族のいない21名の障がいのあるメンバーのケアの継続について、マイメンシン・カトリックトラストに受け容れてもらえることを責任者のポネン司教と合意でき、トラスト証書に明記した。これによりメンバーが将来も安心して暮らせる見通しがたった。
- 3) 第6期の任期終了に伴い、コミュニティ責任者である岩本ワーカーが4カ月間不在となるのを機に、コミュニティのリーダーシップ体制を整えた。メンバーたちにより4名のリーダーシップチームが選出され、的確なリーダーシップを発揮して岩本ワーカーの不在中もコミュニティの暮らしを守り、良好に導いた。
- 4) コミュニティの会計システムの向上を図り、会計ソフト（タリー）を導入した。会計管理システムの速やかな移行と会計士の支援を目的に、半年間非常勤の会計アシスタントを雇用し、タリーによる会計管理体制が整った。
- 5) ラルシュの家の新築と移転に伴い、コミュニティの賃貸家屋の有効利用について、国際ラルシュ財務担当者等と見直しを行った。これにより女性の家（プシュポニール）と作業所が、より安全快適かつ賃貸料も適当な家屋へ引っ越しをおこなった。
- 6) 地元でのファンドレイズ活動を継続した。ダッカの新進のIT企業より役員約10名の訪問を受けたことをきっかけに、首都ダッカでのファンドレイズを強化する機運が高まり、模索が始まった。
- 7) バングラデシュの近年の土地事情を踏まえ、高騰する家賃の支払いに支障を来す場合を考慮し、先に購入したラルシュの土地に隣接する7デシメル（≒0.01エーカー）の土地を購入することを決め、ファンドレイズ活動を開始した。
- 8) 第6期満了後、1カ月の準備期間を経て2019年9月～11月まで活動報告会を実施した。

（2）タンザニア 雨宮春子ワーカー（看護師・助産師）

派遣先：TAHO (Tabora Archdiocesan Health Office：タボラ大司教区保健事務所)

聖ヨハネ・パウロ 2 世病院

派遣期間：2019 年 1 月～2022 年 1 月

活動概要：ママ・ナ・ムトプロジェクト（協働プロジェクト）の活動。TAHO が実施するセミナーとスーパービジョンの支援をおこなった。

1) 現地研修

- ・2019 年 4 月、ダルエスサラームでの語学研修終了後、タボラへ赴任。イプリの聖アンナミッション病院で 6 月後半まで現地医療研修を受けた。
- ・2019 年 10 月、カリウアの聖ヨハネ・パウロ 2 世病院で現地医療研修を受けた。カリウアへの赴任は、基礎調査データ入力分析の遅れ、スーパービジョンとセミナー開催日程の変更、受け入れ先のカリウアのシスターの家の受け入れ態勢の再調整により、予定よりも遅れた。また、研修期間も 2 カ月の予定が 1 カ月に短縮となった。そのため 2020 年 2 月に現地医療に関する研修を受け、特に分娩に関して、前回の研修期間で症例にあたっていないため、重点的におこなった。



病院研修中の
雨宮ワーカー

2) ママ・ナ・ムトプロジェクト

- ・現地医療研修が予定より遅れたこと、基礎調査分析が遅れていることにより具体的な活動を開始することはできなかった。2020 年 4 月から開始予定である。
- ・TAHO 傘下にある 9 つの保健医療施設のうち、周産期の取り扱いがある 8 つの施設のプロジェクトに関する、現状把握のための基礎調査データ入力と分析をおこなった。データ収集は、医療施設の一部からデータ提出が受けられていないこと、またその他のデータもまだ収集が終了していないことにより、データ入力分析は遅れている。
- ・プロジェクトの活動詳細を JOCS と TAHO が協議し策定した。

3) TAHO での活動

- ・TAHO が四半期に一度、産科の保健医療施設を対象に実施しているスーパービジョン（巡回視察）に参加した。
プロジェクトの内容に沿って、周産期を対象とし妊娠期、分娩期、栄養改善教育をテーマに看護助産ケアの実施状況把握と評価をおこない、問題点と課題を抽出して医療施設ごとに改善目標と計画を現地医療者と立案した。
- ・TAHO が年に一度開催するセミナーの準備と実施を支援した。テーマは母と子のための栄養失調改善であった。

（3）短期

2019 年度は短期ワーカーの派遣はなかった。

[3 - 2] 奨学金事業

2019 年度はインド、インドネシア、ネパール、バングラデシュ、ウガンダ、ケニア、タンザニア計 7 カ国の 54 人を支援した。ネパール、タンザニア、ウガンダでモニタリングを実施した。その他の国の現状も併せて検討し、2020 年度の協力団体の見直しをおこなった。

(1) インド

Christian Fellowship Hospital から久しぶりに新規奨学生 2 名を受け入れた。同病院には 1969-1971 年に石井光子元ワーカー（看護師）を派遣し、2003 年からは薬学、歯科、看護、助産、作業療法、臨床検査、医療記録等幅広い分野で 19 名の奨学生を支援してきたが、近年はワーカー、奨学金とも途絶えていた。2019 年度に採用した 2 名のうち 1 名はすでに在学中で医学部 5 年間のうち後半の 2 年間の学費を支援する。もう 1 名の看護師については、看護ケアの向上と看護教育への従事に必要な知見、技術の習得を支援する。

(2) インドネシア

故田村久弥元ワーカーや故塚本香代美元ワーカー、長尾真理元ワーカーの派遣先であった GKST、GMIM、ICAHS 傘下にある保健医療施設で働く 5 名を引き続き支援、2019 年度は新たに 5 名を採用した。（ただし 3 名は契約未締結）しかし 1 名は採用後に学校変更を要望されたが、検討の結果、採用取消となった。

インドネシアでは、看護師長は看護修士を取得することが義務付けられるなど、配置すべきスタッフの人数や資格の基準が保健医療施設の規模に応じて細かく規定されており、それが順守されているかどうか、政府が厳しくチェックを行っている。順守できない場合は、政府から保健医療施設としての認定を受けることができなくなることもある。そのため、近年各保健医療施設からはその基準を満たすための研修を希望する申請が続いており、2019 年度も上級レベルの看護資格取得の要請に応えた。

(3) ネパール

故岩村昇元ワーカーをはじめ、これまで JOCS がワーカーを派遣したことのある HDCS、TLMN アナンダバン病院、UMN、タンセン保健科学専門学校（旧タンセン看護学校）とこれらの組織の傘下にある病院で働く保健医療従事者及び職員 11 名を支援、2019 年度新たに 4 名採用した。（ただし 2 名は契約未締結）

医療へのアクセスが難しい山間部にある保健医療施設では、既に基礎的な分野での研修を終え、看護・助産や臨床検査、理学療法、放射線技師などの分野で准看護・助産師または助手として働いている職員に対し、上級資格及び専門的な資格取得の支援を行った。また、病院のニーズに応じ、専門医の資格取得を希望する医師に対する支援をおこなった。

(4) バングラデシュ

乾眞理子元ワーカー（医師）の派遣先であるカイラクリ・ヘルスケア・プロジェクト（通

称カイラクリ・クリニック）からは2017年度以来、毎年1名ずつパラメディック研修（3年間）の応募があり採用してきた。2019年度も1名を採用し、現在3名が奨学金で学んでいる。カイラクリ・クリニックでは創立者のベーカー医師亡き後、ベーカー医師から技術を学んだ村人らが医療サービスを担ってきたが、医療技術の維持・向上に加え、団体存続のために有資格者が必要となっている。このため医療部門の若手パラメディックに続き、医長代行者、そして2019年度に新たに採用されたモニタリング担当者が奨学金を活用し、仕事を続けながら資格取得を目指している。＊パラメディックとは准医療従事者の意

（5）ウガンダ

ウガンダでは2つの協力団体、リーチアウト・ムブヤおよびUPMBを通じて、奨学金を支給している。首都カンパラ近郊でHIV/AIDSケアを担うリーチアウト・ムブヤからは准看護師1名の看護学士取得の支援を2018年から継続している。

ウガンダ全土に302の医療施設を有するUPMBからは、2017年度および2018年度に採用した奨学生を引き続き支援した。2019年度は新たに5名を採用し、いずれも2019年度内に入学予定だったため初年度の学費を送金したが、うち2名が研修機関の都合で研修開始が2020年度にずれ込んだ（このため同2名を2019年度奨学生一覧に含めている）。10名とも首都から離れた交通の便の悪い遠隔地の病院・診療所に勤務するスタッフで、医師補1名以外は准看護師・准助産師および看護助手である。

また2019年度は奨学金事業のモニタリングの現地調査を行い、特に報告書の遅延など課題の多いUPMBに対し、モニタリングの強化と説明責任を申し入れた。またUPMB傘下の南ルウェンゾリ教区を奨学金事業の協力団体とする可能性を念頭に、現地調査をおこなった。

（6）ケニア

協働プロジェクトのパートナー団体シロアムの園の理学療法スタッフが週末のパートタイムコースで2018年9月から3年間をかけて理学療法学士の取得を目指して学んでいる。

（7）タンザニア

TAHO傘下にある保健医療施設で働く11名を継続支援、2019年度は新規に10名採用した。うち1名は辞退、1名は学校の変更を要望されたが、検討の結果、採用取消となった。

雨宮春子ワーカーの派遣先である聖ヨハネ・パウロ2世病院、及び診療所からヘルスセンターへの格上げを計画しているムワンズギ診療所から申請のあった保健医療従事者及び職員を優先的に支援した。TAHO傘下の保健医療施設ではいずれも基本的な短期研修を受けただけで、資格を持たずに保健医療施設で助手として働いているスタッフが多い。また、どの職種においても政府が定める職員数に足りていない。そのため病院からの要請の中で優先度の高い医師補、看護・助産師、薬剤師などの資格取得を希望する職員への支援を優先的におこなった。

略語一覧

- * GKST : Geredja Kristen Sulawesi Tengah (中部スラウェシキリスト教会)
- * ICAHS : Indonesia Christian Association of Health Service
(インドネシア・キリスト教保健サービス協会)
- * HDCS : Human Development and Community Service (ネパールのキリスト教系 NGO)
- * TLMN : The Leprosy Mission Nepal
(ネパールでハンセン病患者のために活動するキリスト教系 NGO)
- * UMN : United Mission to Nepal
(ネパール合同ミッション。ネパールで活動するキリスト教系国際 NGO)
- * UPMB : Uganda Protestant Medical Bureau (ウガンダ・プロテスタント医療連盟)
- * TAHO : Tabora Archdiocesan Health Office (タボラ大司教区保健事務所)

2019年度奨学生一覧

インド（2名）

職業	年齢	性別	団体名	研修内容	研修期間
学生	22	女	Christian Fellowship Hospital	医学	2019年08月 ～ 2021年02月
准看護師	24	女	Christian Fellowship Hospital	看護学	2019年09月 ～ 2021年09月

インドネシア（6名）

職業	年齢	性別	団体名	研修内容	研修期間
データ管理、医療記録担当者	21	男	GKST Sinar Kasih Hospital	診療記録	2018年07月 ～ 2021年06月
看護師長	46	女	ICAHS Emmanuel Hospital Klampok	看護学（修士）	2017年08月 ～ 2019年08月
看護師長	38	女	GKST Sinar Kasih Hospital	公衆衛生（修士）	2019年07月 ～ 2021年07月
看護師	38	女	ICAHS Estomihi Hospital	看護学・看護教育	2019年07月 ～ 2022年07月
会計スタッフ	27	女	GKST Sinar Kasih Hospital	会計	2016年06月 ～ 2020年06月
看護師、治療室主任	30	女	GMIM Kalooran Amurang Hospital	看護マネジメント（修士）	2017年09月 ～ 2019年09月

ネパール（13名）

職業	年齢	性別	団体名	研修内容	研修期間
医師	42	男	TLMN Anandaban Hospital	医学	2017年04月 ～ 2020年04月
医師	34	女	United Mission Hospital Tansen	病理学	2019年06月 ～ 2022年06月
歯科助手兼准看護・助産師	24	女	HDSC Chaurjahari Hospital Rukum	歯学	2019年11月 ～ 2022年10月
臨床検査技師助手	30	男	United Mission Hospital Tansen	臨床検査	2016年10月 ～ 2019年10月
診療放射線技師助手	46	男	HDSC Chaurjahari Hospital Rukum	放射線診断	2016年10月 ～ 2019年10月
図書館司書	36	男	Tansen School of Health Science	図書館情報管理	2018年06月 ～ 2019年06月
准看護・助産師	31	女	HDSC Lamjung District Community Hospital	看護学	2019年09月 ～ 2022年08月
看護師・助産専門技能者	34	女	HDSC Lamjung District Community Hospital	看護学・公衆衛生	2017年09月 ～ 2020年09月
看護講師助手	32	女	Tansen School of Health Science	看護学	2018年10月 ～ 2021年10月
看護師	30	女	TLMN Anandaban Hospital	看護学	2016年10月 ～ 2019年10月
准看護・助産師	41	女	United Mission Hospital Tansen	看護学	2016年10月 ～ 2019年10月

2019年度奨学生一覧

理学療法士助手	32	女	TLMN Anandaban Hospital	理学療法	2016年08月 ～ 2021年02月
看護師	25	男	UMN Okhaldhunga Hospital	看護学	2018年08月 ～ 2022年07月

バングラデシュ(3名)

職業	年齢	性別	団体名	研修内容	研修期間
パラメディック	27	男	Kailakuri Health Care Project	パラメディック	2018年01月 ～ 2020年12月
モニタリング担当者	41	男	Kailakuri Health Care Project	パラメディック	2020年01月 ～ 2022年12月
医長代行	34	男	Kailakuri Health Care Project	パラメディック	2019年01月 ～ 2022年01月

ウガンダ(10名)

職業	年齢	性別	団体名	研修内容	研修期間
看護助手	34	女	UPMB Bwindi Community Hospital	看護学	2019年12月 ～ 2022年06月
准助産師	24	女	UPMB Bwindi Community Hospital	助産学	2019年07月 ～ 2020年12月
准看護師	27	女	Reach Out Mbuya	看護学	2018年08月 ～ 2021年06月
准看護師	29	男	UPMB Diocese of Northern Uganda /St. Luke HC II	看護学	2018年07月 ～ 2019年12月
准看護師	30	男	UPMB Diocese of Northern Uganda	看護学	2020年07月 ～ 2021年12月
医師補	40	男	UPMB South Rwenzori Diocese /Kinyamaseke HCIII	公衆衛生	2018年08月 ～ 2021年08月
看護助手	33	女	UPMB Bwindi Community Hospital	看護学	2017年11月 ～ 2020年05月
准看護師	27	女	UPMB Rugarama Hospital	薬学	2020年05月 ～ 2023年05月
准看護師	27	女	UPMB Bwindi Community Hospital	看護学	2019年07月 ～ 2020年12月
准看護師	28	女	UPMB Soroti Diocese /Kateta COU HC II	助産学	2018年07月 ～ 2019年12月

ケニア(1名)

職業	年齢	性別	団体名	研修内容	研修期間
理学療法士	27	男	The Garden of Siloam	理学療法	2018年09月 ～ 2021年09月

タンザニア(19名)

職業	年齢	性別	団体名	研修内容	研修期間
医療助手	32	女	St. John Paul II Hospital	薬学	2018年09月 ～ 2021年08月

2019年度奨学生一覧

看護助手	30	男	St. Ann's Mission Hospital	薬学	2015年11月 ～ 2019年11月
医療助手	25	男	St. John Paul II Hospital	薬学	2017年09月 ～ 2020年12月
准看護・助産師	25	男	St. John Paul II Hospital	看護学	2018年10月 ～ 2019年10月
准看護師	25	男	St. John Paul II Hospital	麻酔看護	2019年08月 ～ 2020年07月
清掃員	23	男	St. Ann's Mission Hospital	医学	2016年06月 ～ 2019年09月
医療助手	24	男	St. John Paul II Hospital	医学	2019年10月 ～ 2022年10月
医療助手	23	男	St. John Paul II Hospital	看護学	2019年10月 ～ 2022年10月
医師補	33	男	St. Ann's Mission Hospital	医学	2014年10月 ～ 2019年10月
医療助手	21	男	Mwanzugi Dispensary	医学	2019年09月 ～ 2022年09月
准看護・助産師	28	男	St. John Paul II Hospital	看護学・助産学	2019年10月 ～ 2020年09月
医師助手	19	男	Mwanzugi Dispensary	薬学	2019年09月 ～ 2022年09月
カルテ管理助手	26	男	St. John Paul II Hospital	データ管理	2019年10月 ～ 2022年10月
医療助手	23	男	St. John Paul II Hospital	医学	2019年10月 ～ 2022年10月
医療助手	26	男	Kipalapala Dispensary	検査技術	2017年04月 ～ 2019年04月
医師補	43	女	AMUCTA Dispensary	医学	2018年10月 ～ 2023年10月
病院管理責任者	42	女	Ndala Hospital	病院運営	2017年10月 ～ 2022年10月
シスター、医師補	36	女	Ndala Hospital	医学	2018年08月 ～ 2023年08月
事務	33	女	Mwanzugi Dispensary	看護学・助産学	2019年11月 ～ 2022年11月

＊職業欄の職務・職種は奨学金申請時のもの

＊掲載は契約ベース。研修がまだ開始していないなどの理由で契約をまた締結していない奨学生は掲載していない。

[3 - 3] 協働プロジェクト(プロジェクト・りとり)

(Project “LITTLE” = “Living together with the People”)

カンボジアでは SALT プロジェクトの終了時評価をおこない、ケニアのシロアムプロジェクトは継続実施した。タンザニアのママ・ナ・ムトトプロジェクトは基礎調査を引き続きおこない、詳細計画を策定した。

(1) SALT (Sokkaphheap Anamai La-or sumrup samai Thmey : 次世代のための健康と衛生) プロジェクト

対象国 : カンボジア
活動地域 : バッタバン州
プロジェクト期間 : 2014 年 10 月 1 日～2019 年 9 月 30 日
協力団体 : バッタバン司教区ヘルスセンター
受益者 : バッタバン州内の 16 小学校および 8 中学校の高学年生
プロジェクト目標 : 小中学校への巡回指導による健康教育を通じて、子どもたちの健康促進を目指す

バッタンバン教区のヘルスセンター全体の責任者であるマノシュ神父は多忙となり、プロジェクトへの関与が薄くなる中、ヘルスセンターの健康教育事業の管理担当者が不在という状況は脱し、シスターアンティンが新たな管理担当者になり活動を進めた。プロジェクトスタッフのイン氏とリナ氏は、管理担当者が不在であった時期にはモチベーションが低くなることもあり、時には退職の意向を見せることもあったが、再度積極的にプロジェクトに関与するようになった。

プロジェクトの第 5 年次 (2018 年 10 月～2019 年 9 月) は小学校 15 校、中学校 4 校を巡回して総計 860 人を対象に健康教育、思春期教育を実施した。いずれの学校においても、最後の授業の時には、最初の授業と比べて 8 割程度の児童・生徒の出席率であった。これはバッタンバン州がタイとの国境に近いということもあり、両親がタイに出稼ぎに行くのに伴い、学校に来なくなるなど、プロジェクト側ではコントロールできない要因が背景にあった。

プロジェクトは 2019 年度に終了時期を迎えたため、9 月に終了時評価を行った。協力団体の人員配置の問題で運営が滞った時期もあったが、最終的には準備した教材もカリキュラムも問題なく活用されて健康教育と思春期教育がおこなわれ、年間受益者数も初年度の 4 倍以上の 860 人にまで増えた。この経験を活かして、プロジェクト期間終了後もこれらの活動はヘルスセンターの活動として続けられることになった。さらには学校での就学年齢人口だけでなく、村々において成人女性を対象にした健康教育も開始することを計画するなどの広がりを持ち始めた。

(2) シロアムプロジェクト

対象国 : ケニア
活動地域 : キアンブ地方行政区 (County) インデンデル地区

プロジェクト期間 : 2016 年 4 月 1 日～2021 年 3 月 31 日 (5 年間)
協力団体 : コイノニアミニストリー シロアムの園
受益者 : シロアムの園の療育事業に登録される、身体、知的、精神、認知力
などの発達に障がい(重複障がいが多い)のある子どもおよびそ
の家族
プロジェクト目標 : シロアムの園において、療育事業の基礎が確立される

進捗状況：

プロジェクト開始以来、シロアムの園の活動の柱である①教育、②リハビリテーション、③医療を担う体制が拡充し、協力牧師やカウンセラーによる子ども・家族の心のケアも定着している。登録児数は開始時の 39 名(2016 年)から 2019 年 12 月現在までに延べ 87 名と大幅に増加した。人員体制も強化され、スタッフ 16 名、定期ボランティア 8 名(2019 年 12 月現在)で、一日あたり 12～15 名の子どもを受け入れ、うち 6～10 名に作業・理学療法を提供している。シロアムの園は増加する子どもの必要に応えるために移転を決定し、2019 年度に新しい土地を購入し、移転に向けた準備に着手した。

JOCS は第 4 年次(2019 年 4 月～2020 年 3 月)に 3 名の短期専門家を派遣し、スタッフの育成・能力強化を支援した。2019 年 4 月には特別支援教育専門家の原田真帆氏が 3 度目となる技術指導をおこなった。シロアムの園の若い療育教師 3 名はコミュニケーションに焦点を当てながら、子どもの障がいに合わせて療育メニューやクラスの構成、また集中力を途切れさせない活動の進め方などを実践しながら習得してきている。また 2017 年度から関わってきた原田氏はこの 3 年間にみられたスタッフや子どもたちの変化を動画で振り返り、またスタッフたちは視覚的に成長を把握できたことで大いに励まされ、気づきを得た。

9 月には山内章子元ワーカー(理学療法士)を派遣し、理学療法スタッフのムハンジ氏に 4 度目の理学療法指導を行った。ムハンジ氏は理学療法手技のうちリラクゼーションの手技はおおむね安全、かつ確実にできるようになっている。ムハンジ氏は 2018 年度から JOCS 奨学金で大学の週末コースで研修を開始したため、山内元ワーカーによる実地訓練(OJT)との相乗効果が期待される。

また 2019 年度は新たに作業療法士の松本政悦氏を 2019 年 6 月に 2 週間派遣した。作業療法士のバシリサ氏をはじめとするスタッフたちは発達障がい児をはじめ作業療法を必要とする子どもたちとの関わり方や療育の進め方に戸惑っていた。このため松本氏は子どもとのコミュニケーション(言語・非言語)を大切にし、子どもの自発性を引き出すアプローチを実際にやってみせ、スタッフたちがそれを真似するというプロセスを繰り返し、子どもの反応・変化を確認しながら実技指導をおこなった。またこの「感覚統合」と言われる手法についての勉強会や教材・補助具の活用、車いすの適合調整などの助言もおこなった。重度自閉症の子どもたちが心を開き、意思を伝え始める変化がみられ、スタッフたちは手ごたえを感じ、子どもとの関わり方を考え直すきっかけとなった。

この他に療育を担う主任教師エリザベス氏が 2019 年 7 月に来日し、日本の療育施設で

2 週間の研修や報告会をおこなった。JOCS ではこれらの人材育成費用や人件費の一部を支援した。

(3) ママ・ナ・ムトプロジェクト

対象国 : タンザニア
活動地域 : タボラ州 タボラ大司教区
プロジェクト期間 : 2018 年 4 月～ 2023 年 3 月 (5 年間)
協力団体 : TAHO (Tabora Archdiocese Health Office : タボラ大司教区保健事務所)
受益者 : TAHO とその傘下の 9 の保健医療施設 (病院や診療所など)
プロジェクト目標 : TAHO 傘下の保健医療施設において、母と子が適切な出生前、分娩時、出生後および新生児ケアを受けることができる。

進捗状況 :

分娩の取り扱いがある 8 つの保健医療施設より妊娠・分娩・産褥部門における基礎調査をおこなった。TAHO が四半期ごとに行う保健医療施設のスーパービジョン(巡回指導)の機会を利用して、雨宮春子ワーカー同行時に各施設よりデータ収集につとめ、分析をおこなった。

データ分析結果及び実状調査より課題を精査し、聖ヨハネ・パウロ 2 世病院における活動をパイロットプロジェクトとして実施する次年度の活動計画を策定した。

TAHO では、2019 年 5 月、9 月、11 月、2020 年 1 月に母子ケア、及び栄養摂取とそのケアをテーマにスーパービジョンをおこなった。また、2019 年 9 月に幼児及び小児の栄養失調改善をテーマに、TAHO 傘下の医療施設に働く職員を対象に 3 日間にわたってセミナーを実施した。参加者は主に正・准看護師、医師補、医療助手、母子保健助手である保健医療従事者 21 名だった。セミナーでは、レクチャー及び討論、ブレインストーミング、小グループでの討論とプレゼンテーションを通して、医療サービスを提供する医療従事者として、栄養失調予防におけるベストプラクティスを学び、さらなる知識、スキル、心構えを身につけることを目指した。

[3 - 4] 災害救援復興支援

2019 年度は、災害救援は実施しなかった。

4. 国内諸活動

新規ワーカーの発掘育成を目指したフィールドセミナー、勉強会を実施した。活動報告会としては岩本ワーカーが全国各地で報告会をした。教会訪問やキリスト教書店での広報、雑誌広報にも注力した。

[4 - 1] 国際保健人材育成

将来国際保健医療協力の分野で活動を目指す保健医療系の学生や、現職の保健医療従事者向けに、川崎でのフィールドワーク、国際保健医療勉強会 3 回を実施した。

(1) 国際保健医療協力勉強会

JOCS のワーカー志願者を念頭に、将来的に国際保健医療協力の分野に携わることを希望する人に学びの機会を提供するため、2019 年度は計 4 回の勉強会を開催した。

第 1 ～ 3 回は「一人ひとりに寄り添う障がい児・者支援の事例」をテーマとし、ケニアとバングラデシュの事例を取り上げた（第 1、2 回は同じ内容で大阪、東京で開催）。また第 4 回は下記の日程・内容で実施を予定していたが、新型コロナウイルスの急速な感染拡大により延期とした。

第 1・2 回 一人ひとりに寄り添う障がい児・者支援の事例：ケニアにおける療育活動

【大阪】7 月 12 日（金）18:30 ～ 20:30（20:30-21:00 は派遣希望者説明会）

参加者：合計 17 名（女性 12 名、男性 5 名） ＊うち会員 6 名

【内訳】医師 4、看護師 4、作業療法士 1、言語聴覚士 1、介護関係 1、研究者 1、牧師 1、大学生 1、無職 1、不明 2

【東京】7 月 20 日（土）15:00 ～ 17:00

参加者：合計 21 名（女性 18 名、男性 3 名） ＊うち会員 1 名

【内訳】医師 2、障がい者団体職員 5、会社員 1、保健師・看護師 4、大学生 5、大学教員 1、主婦 1、不明 2

講 師：シロアムの園代表公文和子氏（医師）、エリザベス・ムンガイ氏（療育教師）

内 容：公文医師はケニアのアンバランスな発展（急速な都市化、格差拡大で発展から取り残され、人目につかない場所で生きる人々等）の中で、重度心身障がい児と出会い、シロアムの園を設立した経緯や現在の活動内容を紹介し、「特別な一人ひとり」が共に生きることの喜びを語った。エリザベス氏は、部族社会・伝統的価値観の強いケニアで障がいを持って生きることの痛みを話し、シロアムの園に通うギフト君と母親の変化を分かち合った（公文氏が逐次通訳）。質疑応答では障がいの原因、ケニア政府の障がい者支援の取り組みや特別支援学級の現状等に関する質問や、障がい児・者の自立をどうとらえ、どう支援するかといった質問が両氏に寄せられた。

第 3 回 一人ひとりに寄り添う障がい児・者支援：バングラデシュの事例から

日 時：2019 年 9 月 6 日（金）18:30 ～ 20:30（20:30 ～ 21:00 派遣希望者相談会）

参加者：合計 20 名（女性 16 名、男性 4 名） ＊うち会員 11 名

【内訳】団体職員 3、看護師 3、保健師 2、理学療法士 1、会社員・パート 2、主婦 2、大学教員 1、学生 1、無職・不明 5

講 師：岩本直美ワーカー、森数美医師（精神科医）

内 容：前半は岩本直美ワーカーがラルシュ・マイメンシンのメンバーやアシスタント数名のエピソードを中心に語った。続いて森数美医師が2019年3月に短期専門家としておこなった精神医療ケアの経験から①通所中のコアメンバーたちへの家庭訪問、②メンバーたちの精神的な諸問題への解決策の提案、③アシスタントたちに対する精神医学分野のフォーメーション等の事例を紹介した。障がい児・者支援に携わっている参加者や現地を訪れた経験のある参加者が多く、一人ひとりに寄り添う支援について質疑や意見交換が活発になされた。

第4回 国際協力とプロジェクトマネジメント（新型コロナウイルス対応のため延期）

日 時：2020年2月28日（金）18:30～20:30

講 師：森田隆（JOCS 事務局長）

（2）フィールドセミナー

近年、野宿者の支援現場をフィールドとして実施してきたが、2019年度はテーマを変更し、長年にわたり民族差別や貧困の苦しみを抱えてきた在日韓国・朝鮮人が集住する川崎市桜本地区で実施した。桜本地区では1970年代から住民を主体とするコミュニティ活動や生活・医療・教育などの包括的な支援活動がおこなわれ、近年では増加する外国人労働者・世帯も巻き込んで、居場所づくり、文化の継承、世代間交流など「多文化共生の街づくり」が進められている。地域住民の話を聞き、支援団体や病院を訪問し、“ともに生きる”活動の実践から学んだ。川崎で地域医療に携わる弓野綾医師（元タンザニア派遣ワーカー）を講師に迎えた。

タイトル：フィールドセミナー in 川崎・桜本地区

～Think Globally, Act Locally～地域で学ぶ国際保健

日時：2020年2月17日（月）～2月18日（火）

場所：川崎市桜本地区周辺

参加者：5名（男1名、女4名）

【内訳】学生4、その他1

プログラム概要：

【1日目】 桜本のコミュニティを知る、コミュニティづくりの変遷を知る

- ・桜本地区の歴史、変遷、現状について聞き、人々とともに歩んできた社会福祉法人青丘社の活動現場を訪ねた。
- ・住民に会い、生の声を聴く（在日一世・二世の方々、川崎朝鮮初級学校）

【2日目】 医療現場の取り組みを知る、2日間の気づきを互いに分かち合う

- ・川崎医療生活協同組合川崎協同病院を訪問し、医師・ソーシャルワーカーから社会的に困難な状況におかれた方々への医療ケアについて話を聞き、院内を見学した。
- ・弓野綾医師（元タンザニア派遣ワーカー）からタンザニア、イギリス、川崎での地域保健・国際保健の活動経験を聞き、「困難な状況、弱い立場に置かれた人々と

もに歩むとは」のテーマでセミナー 2 日間の気づきを互いに分ち合った。

(3) スタディツアー

将来、国際保健医療協力の分野で活躍する人材を育成するプログラムとして、タイ・北部の山岳地域に暮らす少数民族の村を訪問するスタディツアーを下記の日程・内容で実施を予定していたが、新型コロナウイルスの急速な感染拡大により、ツアー実施直前に中止を決定した。

日時 : 2020 年 3 月 1 日 (日) ～ 7 日 (日)

訪問場所 : タイ北部山岳地域

内容 : タイ北部の山岳地域で医療・衛生・教育などの社会活動をおこなっている NPO 団体である“Where There Is No Doctor”の活動を視察。代表医師が運営する学校がある村「Janu 村」を訪問し、巡回クリニックの運営、診療サポートの体験と参加者による衛生及び食育を題材とした健康教育をおこなう。

[4 - 2] 国内啓発及び国際協力に関する協働を育む活動

ワーカー報告会や講師派遣を通して、世界の困難な状況におかれた人々の状況の周知をし、また地区 JOCS や関西バザーへの協力によって、国際協力活動に関する支援及び協働を育む機会をつくった。

(1) 使用済み切手運動

使用済み切手の寄付は、団体、個人合わせて 19,717 件、寄付総量は、約 9,000 キログラムであった。集まった使用済み切手の整理は、新規参加者 5 名をあわせて、47 名のボランティアでおこなった。また、夏休みを中心に、小学生から大学生および大人、総勢 15 名のボランティア体験の受け入れをおこなった。

1) スタンプショウへの参加

スタンプショウ 2019 2019 年 5 月 1 日 (東京都立産業貿易センター)

2) 書き損じハガキキャンペーンの実施

書き損じハガキキャンペーンを、2019 年 12 月から 2020 年 1 月末日までの 2 カ月間おこない、目標の 1 万枚を上回る約 17,500 枚の寄付があった。呼びかけは、ホームページ、メールニュース、使用済み切手の受領書、チラシを通じておこなった。特に、チラシは、日本国内の教会向け DM サービスを用いて、約 8,000 教会に配布した。また、書き損じハガキキャンペーンのチラシと同時に、きしゃぼん募金呼びかけのチラシも同時配布した。

3) 送料負担キャンペーン

2019 年 6 月 1 日から 11 月 30 日までの半年間、1 箱 5 キログラム以上の使用済み切手、外国コイン・紙幣、書き損じハガキをゆうパックで寄付していただいた場合に

限り、送料を JOCS が負担した。

(2) ワーカー活動報告会

バングラデシュから第 6 期の活動を終えて帰国した岩本直美ワーカーの活動報告会「弱さがつむぐいのちの物語」を 2019 年 9 月 1 日から 11 月 30 日まで実施した。報告会を実施して下さった団体は、全国の教会、幼稚園から大学までの教育機関、市民団体、病院などで、講演回数は計 44 回であった。障がいのあるなしや民族や宗教などの違いを超えて支えあい、赦しあう共同体ラルシュ・マイメンシンのメンバーや家族、地元の支援者の物語を分かち合った。「一人ひとりの小さな物語が尊く、価値があることをあらためて教えてもらった」、「想像以上の現実と活動に深い印象と刺激をいただいた。」「特に看護学生に説得力をもって伝わるのは、何より医療・福祉分野での実体験で信仰を生きておられる方々の姿だと感じた」など多くの感謝や感想が寄せられた。

(3) 地区 JOCS 活動支援

2019 年度中におこなわれた地区 JOCS の主な活動は、以下のとおり。

仙台 JOCS		参加者数
毎月第 2 土曜日	使用済み切手整理作業「きってきつぺ」(仙台市市民活動サポートセンター)	のべ 113 名
9/23	せんだい地球フェスタに出展 (仙台国際センター展示棟)	-
10/12	岩本直美ワーカー報告会	台風のため中止
足利 JOCS		
9/15	岩本直美ワーカー報告会 (日本キリスト教団足利東教会)	20 名
12/14	足利市民クリスマス (足利市民プラザ小ホール)	200 名
町田 JOCS		
毎月第 3 水曜日	使用済み切手整理作業 (メディカルホームグラニー玉川学園)	-
9/8	岩本直美ワーカー報告会 (JOCS 町田カトリック共催) (カトリック町田教会)	30 名
12/17	クリスマス茶話会	8 名
京都 JOCS		
4/6	第 15 回京都 JOCS チャリティーウォークソン (京都鴨川河川敷)	30 名
7/26	第 41 回京都 JOCS チャリティーコンサート グラン・シャンス in 2019 (京都府立府民ホール アルティ)	270 名

10/19	京都 JOCS のつどい 岩本ワーカー報告会（京都 YMCA）	33 名
大阪 JOCS		
10/18	第 13 回大阪 JOCS カフェ（JOCS 関西事務局）	15 名
2/26	大阪 JOCS 主催「オープンサタデー」 中村哲医師お祈り会（大阪聖パウロ教会 2 階集会室）	新型コロナウイルスの感染拡大のため延期
神戸 JOCS		
10/12	神戸 JOCS のつどい 40 周年記念 スペシャルコンサート（日本キリスト改革派 神港教会）	台風のため中止
芦屋 JOCS		
11/9	芦屋 JOCS のつどい 40 周年記念イベント バングラデシュを味わおう（カトリック芦屋教会）	60 名
四国高知 JOCS		
9/28	四国高知 JOCS のつどい 四万十集会 岩本ワーカー報告会（日本キリスト教団 中村栄光教会）	11 名
9/29	四国高知 JOCS のつどい 高知集会 岩本ワーカー報告会（日本キリスト教団 高知教会）	41 名

（４）関西 JOCS バザー

毎年恒例の関西 JOCS バザーは、25 回目を迎え、2019 年 5 月 11 日（土）に大阪聖パウロ教会で開催された。2019 年度も関西地区活動委員会の彼谷廣子委員をバザー委員長に、8 名のバザー委員と共に 4 回のバザー委員会を開き、実施した。2018 年度同様のべ 100 名以上のボランティアの方々の協力のおかげで、バザー当日は約 550 名の入場者があり、売上より 1,376,195 円を JOCS へ寄付した。使用済み切手も約 22 キロ集まった。

（５）講師派遣プログラム

JOCS の活動や使用済み切手運動の紹介のため、依頼に応じて事務局内外から講師を派遣している。問い合わせのあった以下の諸団体（13 団体）に講師を派遣した。

派遣時期	派遣場所
4 月	吹田第 10 団ボーイスカウト
6 月	女子学院同窓会 天満橋ライオンズクラブ
7 月	明治学院中学校 明治学院東村山高等学校 新浦安教会夏期学校

10 月	マロニエ医療福祉専門学校
11 月	恵泉女学園中学・高等学校 戸山教会付属戸山幼稚園 聖隷クリストファー大学
12 月	マロニエ医療福祉専門学校 東京女子大学
2020 年 1 月	土浦めぐみ教会付属マナ愛児園
2 月	成増高等看護学校（3 回）

（６）事務局訪問受入

JOCS の活動内容や、使用済み切手運動について学ぶ機会を提供するため、中学生・高校生のグループをはじめとする事務局訪問の受け入れをおこなっている。今年度は、学校など、計 9 団体の訪問があった。

<東京事務局>（5 団体 45 名）

青山学院初等部宗教プロジェクト、明治学院高等学校、
恵泉女学園中学・高等学校奉仕委員会、香蘭女学校中等科バザー委員会、
湘南学園中学校

<関西事務局>（4 団体 25 名）

京都大学アイセックジャパン、松原高等学校、日本信号株式会社大阪支店、
大阪西ロータアクトクラブ

（７）視聴覚資料

希望者に、DVD、写真パネルの貸し出しをおこなった。

2019 年度は、3 件の貸し出し依頼があった。

なお、視聴覚資料は、JOCS の活動を報告する機会にも活用されており、2019 年度は、「JOCS 活動紹介（2019.5 版）」「アサンテ サーナ（Asante Sana）タンザニアにまかれた種」を総会や地区 JOCS の活動で上映した。

【資料内容】

- ・現地写真パネルセット
- ・活動紹介 DVD

「JOCS 活動紹介（2019 年 5 月版）」

「アサンテ サーナ（Asante Sana）タンザニアにまかれた種」

創立 50 周年記念「カシナマ ジュパン」「心をひらいて」2 枚 1 セット

「エイズと向き合う」
「使用済み切手でアジアに医療協力を」改訂版
「クメールの人々と共に－カンボジアの農村から－」
「日本のお友達へ」
「アジアの呼び声に答えて」
「オカルドゥンガ診療所にて」
「はるかなるネパールの村へ」

(8) 関西 JOCS2019

バングラデシュで生きる ～障がいのある人たちと共に～

日時 : 2019 年 10 月 14 日 (月・祝) 午後 2 時～5 時 (開場午後 1 時半～)
場所 : カトリックセンター サクラファミリア 聖堂及びホワイエ
来場者 : 90 名
プログラム内容: ①岩本直美ワーカー、山内章子元ワーカーのお話 (インタビュー形式)
②ハインリッヒ・シュッツ室内合唱団コンサート
成果 : 開催日前々日の大型台風の影響で、他団体のイベントの多くが中止になる中、関西 JOCS2019 の実施も危ぶまれたが、無事に開催することができた。今回は、バングラデシュ派遣のワーカー 2 名を迎えて、インタビュー形式で行うという初めての試みであったが、大変好評であった。またハインリッヒ・シュッツ室内合唱団のコンサートは、大変素晴らしいものだった。今回のイベントで、2 名の新規会員を得た。またコンサート後の茶話会で、親睦を深めることができた。

(9) 関西事務局オープンサタデー

平日のボランティア活動への参加が難しい方向けに、毎月第 4 土曜日に関西事務局を開け、同日午後、気軽な勉強会を大阪 JOCS の協力を得て開催した。テーマは幅広く、JOCS に関わりのある医療・福祉・健康・国際協力など、毎回多彩な講師を迎えておこなった。毎回平均 14 名の参加があった。その前後に使用済み切手整理のボランティア活動をおこない、平均 1~2 名の参加があった。

(10) 国際協力イベント参加

1) グローバルフェスタ JAPAN2019

日時 : 2019 年 9 月 28 日 (土)、29 日 (日)
場所 : お台場センタープロムナード (東京都江東区青海 1-2)
展示内容 : 使用済み切手貼り絵、活動写真パネル
来場者 : 2 日間イベント全体で計 183,743 名 (主催者発表)
当日ボランティア : 6 名

切手収集家が制作した切手貼り絵 6 点を展示し、使用済み切手運動ならびに JOCS の活動を紹介した。開催前には、会場近隣の教会 8 カ所（江東区、品川区、港区、大田区）を訪問し来場を呼びかけた。

2) ワンワールド・フェスティバル for Youth2019

日時 : 2019 年 12 月 15 日（日）10:00 ～ 16:00
場所 : 大阪 YMCA（大阪市西区土佐堀 1-5-6）
展示内容 : JOCS の活動紹介パネル 使用済み切手活動紹介パネル
来場者 : のべ約 6,000 名（主催者発表）
当日ボランティア : 1 名

日程が合わず、この数年出展を見合わせていた「ワンワールド・フェスティバル for Youth」に久しぶりに参加した。来場者は高校生を中心とした若者が主だったが、熱心に活動の様子や使用済み切手運動のことを聞いてくれ、伝えることができた。

（1 1）ネットワーク活動

現在、「国際協力 NGO センター（JANIC）」「関西 NGO 協議会」「カンボジア市民フォーラム」「障害分野 NGO 連絡会（JANNET）」に加入している。JANIC では、2 つのワーキンググループ「公益法人に関する NGO 連絡会」「組織マネジメント」に参加し、情報及び経験の共有をした。

カンボジア市民フォーラムでは、共同代表世話人として森田隆事務局長が選挙で選出され、理事会の承認を得て 2019 年度から共同代表に就任した。JANNET では、2018 年度までと同様に事務局スタッフが監事として運営に携わった。

「NGO 非戦ネット」（非戦の平和、共生を目指す NGO の緩やかなネットワーク）の活動に賛同して呼びかけ人を務めている。2019 年度も他の NGO とともに非戦の声を上げた。

（1 2）創立 60 周年記念事業準備

JOCS は 2020 年度に 60 周年を迎える。2020 年度に実施する記念事業について、理事会で検討した。結果、活動紹介 DVD の作成、啓発のための絵本の作成、全国での活動報告会などを実施することを決定した。

[4 - 3] マーケティング

この 5 ヶ年計画のなかでは、継続的支援者の増加を目指している。2019 年度は通常の会報誌「みんなで生きる」の発行と同時に、将来の支援者の育成にもつながる子ども向けの絵本を発行した。また 2018 年度に引き続き、キリスト教書店での広報活動、教会訪問、遺贈に関する広告を含めた工夫を凝らした雑誌広告など、支援者の増強のための活動を実施した。引き続き会員減少は続いているが、減少幅は去年にもまして小さくなりつつある。

(1) 会報誌『みんなで生きる』の企画・編集

発行回数：年7回（偶数月10日、11月10日発行）

発行部数：通常号：6,000部

6・7月号（簡易版）：12,000部

子ども号：7,000部

体裁：A4版。12ページ（4・5月号、8・9月号、10・11月号）、
16ページ（12・1月号、2・3月号）、4ページ（6・7月号）

送付先：会員と年額1万円以上の寄付者等。ただし6・7月号は年次報告書とともに全支援者に送付した。

特集記事：4・5月号 タンザニアの母子保健活動のプロジェクトの新しいかたち
6・7月号（簡易版のため特集記事はなし）

8・9月号 第58回 JOCS 定時社員総会報告

10・11月号 岩本直美ワーカー第6期活動報告

12・1月号 JOCSにつながる人たちからのクリスマスメッセージ

2・3月号 奨学金事業ネパールモニタリング報告

その他、会長による巻頭言、ワーカーからの手紙、協働プロジェクト進捗報告、奨学生紹介、JOCSと私、ワーカーたちの今、地区JOCSからの報告、新入会者報告、国内活動の案内や報告を掲載した。

評価活動：毎号、都道府県順に100人の会員を抽出し、往復はがきでアンケートを送付した。毎回30通前後の回答を得た。得た回答は誌面づくりに役立てた。また随時会員の声として誌面で紹介した。

編集・校正ボランティア：編集にあたっては、以下のボランティアメンバーに協力をいただいた。柏木牧子氏（イラスト）、岸川瞳氏、古中大輔氏、那須野幸子氏



(2) 子ども向け出版物

小学校の低学年を対象として、子ども向けの小冊子を発行した。前半はタンザニアの奨学生の体験に基づいた絵本、後半はタンザニアの保健医療事情や JOCS のタンザニアの活動を紹介する構成とした。後半部分には読み手が取り組むためのワークや、教会学校での活用を想定して、お祈りのページを含めた。

A 5 サイズ横型 20 ページと、通常の「みんなで生きる」と体裁は異なるが、「みんなで生きる」増刊号として発行し、第 3 種郵便を利用して支援者の方々に配布した。別途、教会を中心に 1,000 部強の注文を受け、発送した。



(3) 年次報告書

2018 年度（2018 年 4 月～2019 年 3 月）の海外事業、国内活動、会計報告等をまとめた年次報告書を発行した。JOCS の活動内容と成果をわかりやすく伝えることを目的とし、ワーカーと共に活動する人々や奨学生、協働プロジェクトに関わる現地の人々を紹介した。また国内での活動の報告や支援者の声も掲載した。

例年通り、会報誌 6・7 月号と夏期募金趣意書を同封し発送した。



発行回数：年 1 回（6 月 10 日発行）

発行部数：12,000 部。発送数は 10,295 部

体裁：A 4 版。20 ページ

送付先：全支援者

評価：同封したアンケートのうち 144 通が返信された（回答率 1.4%）。印象に残った記事として「ワーカー派遣」「JOCS の理念」「奨学金事業」が多く挙げられた。

(4) プレスリリース

株式会社 PR TIMES の社会貢献活動である、プレスリリース配信サービスの無償提供プロジェクトを活用したプレスリリースをおこなった。8 月に岩本直美ワーカー帰国報告会についてのリリースをおこなった。

記事名：国際協力 NGO バングラデシュ駐在看護師の活動報告会を日本各地で開催～障がいのある人々との日々の報告～

定期的なプレスリリースのための事務局体制は、2019 年度中の整備、実施には至らなかった。

(5) 雑誌広告

キリスト教雑誌『百万人の福音』『信徒の友』の 7 月号 (6 月発売) と 1 月号 (12 月発売) に 1 ページ広告を掲載した。7 月号ではネパールで理学療法士の学びを続けている JOCS 奨学生の働きについて、1 月号では岩本直美ワーカーの活動先で出会った障がいのある女性の姿を紹介した。『百万人の福音』を見て JOCS を知ったという方 1 名が今年度入会した。

また、初めて『婦人之友』誌の 1 月号 (12 月発売) と 4 月号 (3 月発売) に 1 ページ広告を掲載した。

(6) キリスト教書店での広報活動

いのちのことは社直営のキリスト教書店で、以下のような広報活動をおこなった。

- ・デジタルサイネージ(電子看板)の掲示(新宿店)。書籍購入者全員へのチラシ配布(全国 8 店舗)。チラシ約 12,000 枚を配布した。19 名から資料請求があり、そのうち 15 名が入会した。
- ・新宿店店頭での活動紹介イベントを、2019 年 11 月 29 日(金)、30 日(土)の 2 日間、11 時から 18 時まで、事務局スタッフ 2 名が実施した。2 日間で 34 名に JOCS の活動を紹介し、1 名が入会した。

また、カトリック聖パウロ修道会の運営する書店「サンパウロ」で、2019 年 10 月から書籍購入者全員へのチラシ配布(全国 6 店舗)をおこなった。

(7) 教会訪問

関東圏の 12 の教会及び集会を職員が訪問し、活動報告と支援のお願いをした。15 名の新規入会、4 名の新規寄付者を得ることができた。キリスト教共感層を対象としたプレゼンテーション(10 分)を 2 種類作成し、教会訪問担当以外の職員でも実施できるようにした。

(8) 募金

2019 年度の募金協力件数は以下のとおりである。

	依頼件数	協力件数	協力率	寄付金総額
夏期募金	10,295 件	2,306 件	22.4%	23,147,613 円
冬期募金	10,315 件	4,747 件	40.1%	52,193,110 円
その他の募金	—	—	—	9,111,404 円
国別指定	—	—	—	6,649,440 円
奨学金指定	—	—	—	2,305,000 円
災害救援指定	—	—	—	10,000 円
海外派遣事業指定	—	—	—	500,000 円
総計	—	—	—	93,916,567 円

夏期募金は、例年どおり、6 月発送の年次報告書と「みんなで生きる」6・7 月号に、募金趣意書と払込用紙を同封した。冬期募金では、バングラデシュの岩本直美ワーカーが出会った、障がいのある女性の姿を紹介する趣意書を発送した。

夏期・冬期募金の趣意書に会員募集の旨を載せたところ、夏期募金で 10 名、冬期募金で 24 名が寄付者から会員へ移行した。また冬期募金の趣意書を過去 1 年間の新規切手協力者 1,522 名に発送したところ、1 名が入会、39 名から新規のご寄付があった。一般寄付の他、特別寄付や奨学金指定、国別指定の寄付が集まった。



(9) 遺贈

高齢層の読者が多い雑誌『明日の友』の取材を受け、夏号に、「遺贈は未来へのギフト」という 2 ページの記事が掲載された。また、2018 年度に続いて『明日の友』冬号に、資料請求はがき付きの 3 ページ広告を掲載した。『明日の友』読者 5 名から資料請求があった。会報、夏期・冬期募金趣意書で遺贈パンフレットを案内したところ、電話や年次報告書アンケートによるパンフレット請求が 18 名からあった。信託銀行から、顧客の依頼により遺言書を作成しているとの表明が 2 件あった。

(10) 物語データベースの作成

活動の中で与えられた様々な物語を JOCS の広報物、活動報告会、啓発冊子等に展開するため、物語データベースを作成した。物語委員会が提案したデータベース項目、検索方法、レポート形式を事務局及び理事会で検討し、データベースの仕様を確定、発注した。完成は 2020 年度の予定である。

5. 運営体制

東京事務局に隣接する日本聖書協会キリスト教視聴覚センター礼拝堂にて社員総会を 6 月に開催した。理事会では各理事から中長期的な課題に関する発題もされ、活発に協議した。また、理事会の諮問を受けた 4 つの委員会が、専門的見地から理事会へ答申を行った。2020 年度総会にて改選予定である理事、監事の選任のための作業が始まった。

[5-1] 社員総会

2019 年 6 月 15 日 (土)、午後 2 時から、東京都新宿区日本聖書協会キリスト教視聴覚センター礼拝堂にて、35 名の社員の出席と 193 通の委任状、26 通の書面表決を以って、第 58 回定時社員総会を開催した。議事に先立ち、日本聖公会首座主教である植松誠主教から説教をいただいた。その後、2018 年度事業報告がおこなわれ、議事である 2018 年度決算報告が、承認、決議された。また、議案審議の終了後には、2019 年度事業計画、収支予算について説明がなされた。

[5-2] 理事会

定例理事会は、以下の日程、場所で開催した。

2019 年	4 月 20 日	東京事務局
	6 月 15 日	キリスト教視聴覚センター AV ルーム
	7 月 27 日	東京事務局
	9 月 7 日	東京事務局
	11 月 16 日	東京事務局
2020 年	1 月 25 日	東京事務局
	3 月 14 日	東京事務局

今年度の理事ならびに監事は次のとおり。

理事：畑野研太郎（会長）、大友宣（常務理事）、小宅泰郎、久保礼子、土居弘幸、
名取智子、榛木恵子、東岡牧、森田隆、柳澤理子

監事：倉辻忠俊、渡部芳彦

〔 5－3〕 委員会

(1) 関西地区活動委員会

委員長：船戸正久 副委員長：彼谷廣子

委員：宇山進、大谷 透、小野勝、加輪上敏彦、川北かおり、久保礼子、島田 恒、
杉村（諏訪）恵子、高田敏尚、中村満子、和田 浩、渋谷理香（事務局）

1) 隔月に開催している委員会では、各地区 JOCS の活動報告、募金報告、関西 JOCS のつどいに関する協議・反省、バザー報告などをおこなった。

2) 関西 JOCS2019 開催のための話し合いをおこない、開催した。詳細は 21 頁〔 4－2〕
「国内啓発及び国際協力に関する協働を育む活動（8）関西 JOCS2019」参照のこと。

(2) 奨学金委員会

委員長：小宅泰郎 副委員長：柳澤理子

委員：澤田和美、杉村（諏訪）恵子、細谷たき子、宮崎雅、滝澤さおり（事務局）、
松浦由佳子（事務局）

1) 2019 年度奨学生選考

奨学金申請のあった 6 カ国 53 名のうち、27 名を内定（うち 1 名は条件付き内定）の後、理事会に答申し、承認された。条件付き内定としたネパールの 1 名は、現地モニタリング調査で必要性を確認の上、正式に承認された。後日、支給決定者 27 名のうちタンザニアの 1 名が他の奨学金受給が決まったため辞退した。またインドネシア 1 名およびタンザニア 1 名から研修コースや研修機関の変更希望があったが、変更内容が大きいため承認を取り消した。

対象国	2019 年度	
	申請者	支給決定者
インド	3 名	2 名
インドネシア	13 名	5 名
ネパール	4 名	4 名
バングラデシュ	1 名	1 名
ウガンダ	22 名	5 名
タンザニア	10 名	10 名
合 計	53 名	27 名

この結果、2019 年度は前年度からの継続奨学生および新規承認奨学生を合わせ、インド 2 名、インドネシア 6 名、ネパール 13 名、バングラデシュ 3 名、ウガンダ 10 名、ケニア 1 名、タンザニア 19 名の合計 54 名に奨学金の支援をおこなった。詳細は 2019 年度奨学生一覧（9～11 頁）を参照。

2) その他の協議

2019 年度に実施したネパール、ウガンダ、タンザニアでの現地モニタリングの結果や対象国の協力団体の現状、奨学金事業国別方針を踏まえ、2020 年度の奨学金事業のカウンターパートについて検討し、理事会で承認された。

(3) 財務委員会

委員長：榛木恵子 副委員長：羽山信輝

委員：黒川純、飯田多香子（事務局）、小池宏美（事務局）

例年と同じ様に、委員長は毎月、委員は四半期ごとに事務局から財務状況の報告を受け、財務運営が適正におこなわれていることを確認した。

収益見込みと費用の変更に対応するため、予算の補正を 2019 年 8 月と 2020 年 1 月の 2 回協議し、会長及び常務理事に提出した。また会計責任者が立案した 2020 年度予算案は、2019 年度決算見込みを確認の上で、2020 年 1 月と 2 月に協議して調整し、会長及び常務理事に提出した。

(4) 物語委員会

委員長：畑野研太郎

委員：植松功、名取智子

2018 年度に提案した物語データベースは、事務局及び理事会で詳細を検討することとなったため、2019 年度は委員会を開催しなかった。

[5 - 4] 事務局

2019 年度は東京事務局は 10 名（ただし期中入局 1 名）、関西事務局は 3 名（ただし期中退職 1 名、入局 1 名）の職員体制であった。また 2019 年度も東京事務局、関西事務局とも、使用済み切手運動に関する仕事、事務局の仕事、各種イベントにおいて多くのボランティアの協力を得ることで活動を実施できた。

事務局長・海外事業部長・マーケティング部長 森田隆

事務局次長・管理部長 名取智子

東京事務局 飯田多香子、河井敦、小池宏美、高橋淳子、
竹内里佳（3 月～）、滝澤さおり、松浦由佳子、
森田真実子

関西事務局 渋谷理香、折口よし子（～ 8 月）、斎藤桂、
岡崎凜（3 月～）

6. 社員会員・一般会員の現状報告

2020年3月31日現在

社員会員	320名
一般会員	3,244名
合 計	3,564名

2019年度中の社員会員、一般会員の異動

1. 社員会員

- (1) 新たに社員会員となられた方 8名
- (2) 一般会員から社員会員になられた方 7名
- (3) 社員会員を辞し、一般会員となられた方 2名
- (4) 退会された方 9名

2. 一般会員

- (1) 新たに入会された方 137名
- (2) 退会された方 184名

7. 2019年度の主な動き

4月

- 1日 滝澤さおり氏入局
- 6日 京都 JOCS チャリティーウォークソン（鴨川河川敷）
- 8日 雨宮春子ワーカータボラに赴任
- 27日 オープンサタデー（関西事務局）

5月

- 1日 浅草スタンプショウに出店（東京都立産業貿易センター台東館）
- 11日 関西 JOCS バザー（大阪聖パウロ教会）
- 14日－29日 森田隆事務局長協働プロジェクトモニタリングのためカンボジア、
岩本直美ワーカー終了時評価のためバングラデシュ出張
- 23日－29日 植松功氏岩本直美ワーカー終了時評価のためバングラデシュ出張
- 25日 オープンサタデー（関西事務局）

6月

- 15日 第58回定時社員総会（東京 キリスト教視聴覚センター礼拝堂）
- 15日－30日 松本政悦氏ケニア短期派遣
- 15日－23日 松浦由佳子事務局員協働プロジェクトモニタリングのためケニア出張

22 日 オープンサタデイ（関西事務局）
29 日－7 月 10 日 森田隆事務局長協働プロジェクトモニタリング等のためタンザニア出張

7 月

12 日 国際保健医療勉強会（大阪聖パウロ教会）
20 日 国際保健医療勉強会（キリスト教視聴覚センター会議室）
26 日 京都 JOCS チャリティコンサート（京都府立府民ホール アルティ）
27 日 オープンサタデイ（関西事務局）
31 日 岩本直美ワーカー帰国

8 月

24 日 オープンサタデイ（関西事務局）
31 日－9 月 22 日 山内章子元ワーカーケニア出張

9 月

6 日 国際保健医療勉強会（早稲田奉仕園セミナーハウス）
15 日－28 日 森田隆事務局長協働プロジェクト終了時評価のためカンボジア、スタディツアー先発掘のためタイ出張
23 日－27 日 川口恭子氏、滝澤さおり事務局員スタディツアー先発掘のためタイ出張
28 日 オープンサタデイ（関西事務局）
28 日 四国高知 JOCS のつどい（中村栄光教会）
28 日－29 日 グローバルフェスタ JAPAN2019 に出展（お台場・センタープロムナード公園）
29 日 四国高知 JOCS のつどい（高知教会）

10 月

14 日 関西 JOCS2019（サクラファミリア）
18 日 大阪 JOCS カフェ（関西事務局）
19 日 京都 JOCS のつどい（京都 YMCA）
20 日－27 日 森田隆事務局長、滝澤さおり事務局員奨学生モニタリング等のためネパール出張
26 日 オープンサタデイ（関西事務局）

11 月

9 日 芦屋 JOCS のつどい（カトリック芦屋教会）
16 日－27 日 森田隆事務局長、滝澤さおり事務局員協働プロジェクトモニタリング等のためタンザニア出張

23 日 オープンサタデイ（関西事務局）

29 日－30 日 オアシスブックセンター新宿店にてイベント開催（新宿）

12 月

1 日 岩本直美ワーカーバンングラデシュへ赴任

1 日－1 月 31 日 書き損じハガキキャンペーンを実施

3 日 関西ボランティアお疲れ様会（関西事務局）

7 日－16 日 森田隆事務局長、松浦由佳子事務局員奨学生モニタリングのためウガンダ出張

14 日 足利市民クリスマス（足利市民プラザ）

15 日 ワン・ワールドフェスティバル for Youth に出展（大阪 YMCA）

20 日 関西ボランティアクリスマス会（関西事務局）

1 月

17 日 東京事務局ボランティア交流会（キリスト教会館会議室）

25 日 オープンサタデイ（関西事務局）

28 日－2 月 6 日 東岡牧理事、森田隆事務局長、松浦由佳子事務局員協働プロジェクトモニタリング等のためケニア出張

2 月

17 日－18 日 フィールドセミナー in 川崎・桜本地区

3 月

2 日 竹内里佳氏入局

3 日 岡崎凜氏入局

31 日 河井敦事務局員、松浦由佳子事務局員、斎藤桂事務局員退職